# 京都府の地震活動

## 令和5年(2023年)2月

第 36 巻 第 2 号

## 京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況 震央分布図、断面図 「京都府の地震活動」掲載の震央分布図と断面図について	• • • 1
	• • • 2
	3

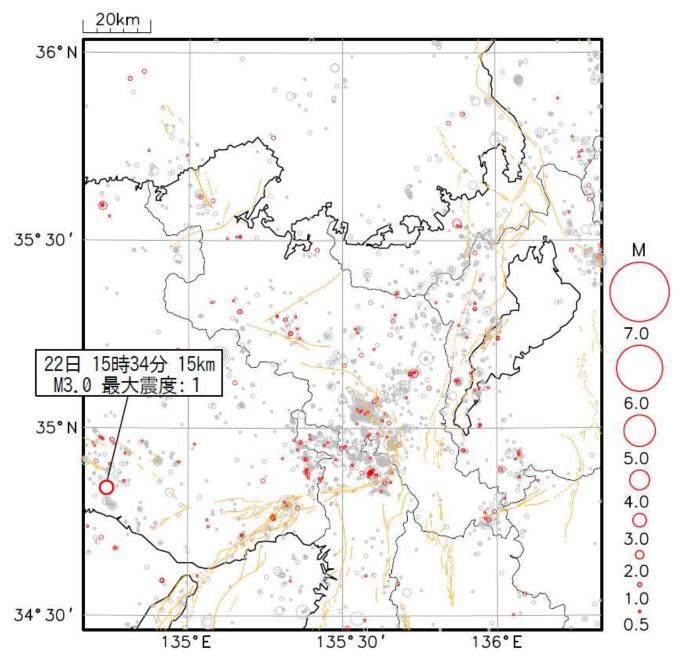
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学 技術研究所から提供されたものを掲載しています。

## 震央分布図(マグニチュード 0.5 以上、深さ O~80km)



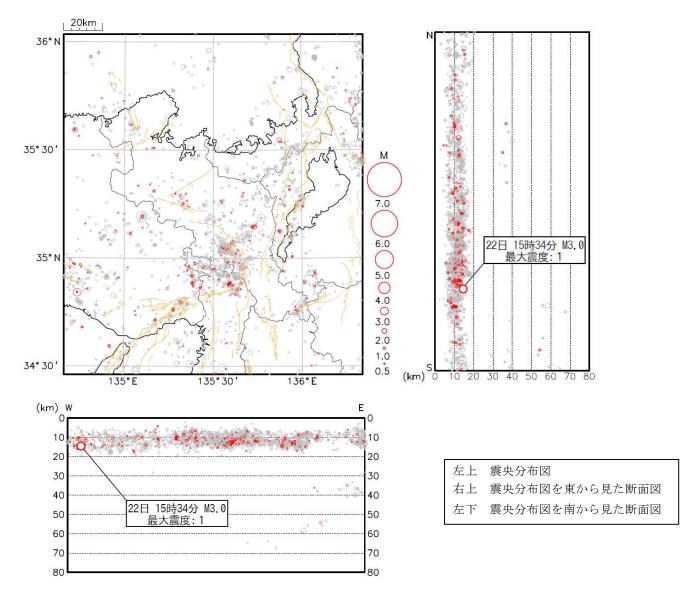
- ・(2022年3月1日~2023年2月28日、深さ0~80km、M≥0.5)
- ・2023年2月の地震を赤く表示(総数231)
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード (M) の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード (M) 、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

#### 概況

2月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は4回、震度1以上の 揺れを観測した地震は1回でした(1月はそれぞれ4回、0回)。

2月中、京都府内で震度1以上を観測した地震はありませんでした(1月は0回)。

## 震央分布図、断面図 (マグニチュード 0.5 以上、深さ O~80km)



- ・(2022年3月1日~2023年2月28日、深さ0~80km、M≥0.5)
- ・2023年2月の地震を赤く表示(総数231)
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード (M) の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード (M) 、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km~約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震(地殻内地震)、深さ約 30km~約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

### 【地震一口メモ】

## 「京都府の地震活動」掲載の震央分布図と断面図について

「京都府の地震活動」に掲載している「震央分布図」と「断面図」について説明します。

地下の地震が発生した場所を「震源」と言い、その真上の地表位置を「震央」と言います。資料1ページ目に掲載している震央分布図は、ある期間に発生した地震の震央をプロットしたもので、シンボルマークの大きさにより地震の規模 (M:マグニチュード) を表現しています。

また、地下の様々な深さで発生する地震の震源が、深さ方向にどのように分布しているのかを知るために、資料2ページ目には、震央分布図の領域の南北方向と東西方向について、震源の鉛直分布を表示した断面図を掲載しています。この断面図から、京都府および周辺で発生している地震の多くが、深さ20kmより浅い地震(陸域の浅い地震)ということが分かります。

その月に発生した京都府周辺部での地震の活動について、発生場所、その活動度、及び過去の地震活動との比較などを知っていただくために、毎月、これらの地震活動図(震央分布図、断面図)を掲載しています。普段からお住いの地域の地震活動に興味を持つことによって、防災意識が向上し、地震発生時の迅速な初動対応につながるものと考えます。

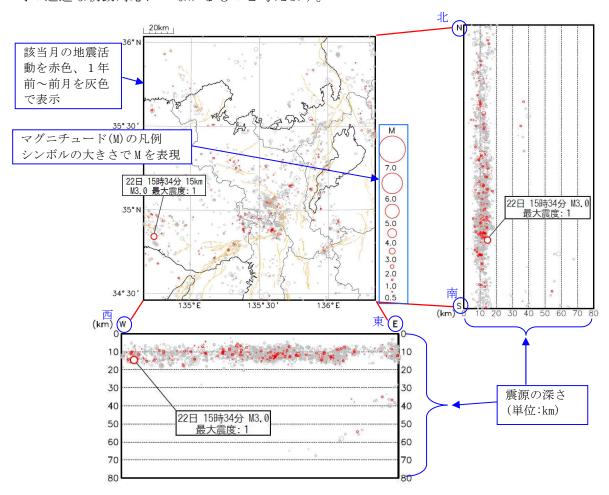


図 震央分布図(左上)と断面図(左下:東西断面図。右:南北断面図)

※説明のため、吹き出しがある震央分布図(資料1ページ目)と断面図(資料2ページ目)を同時に掲載し一部加工